
第 266 回 神戸大学都市安全研究センター RCUSS オープンゼミナール

日時：2021 年 4 月 17 日（土）14:00～17:00

視聴：下記ページから、ライブ動画視聴申込を事前に行ってください。

https://zoom.us/webinar/register/WN_yqh6xK2sRp6Nu685UZ1MGQ

司会：北後 明彦 神戸大学都市安全研究センター教授

① 東日本大震災における移転再建を伴う復興プロセス—岩手県大船渡市における市街地・住宅地再建—
澤田 雅浩

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授

岩手県大船渡市は、明治三陸、昭和三陸、チリ地震津波でも被害を受けている。東日本大震災では三陸沿岸の市町の中では被害はそこまで大きくはなかったものの、市街地の被害は大きくなった。市街地の再建、住宅の移転再建に関しては、人口減少社会の到来や、再建意向の変化に伴って元に戻す、だけではない計画推進が必要となった。ここでは、当初計画の策定状況とその後の修正プロセスを概観しながら面的に浸水被害が生じた市街地の再建のありようを考える。

② 巨大地震津波リスクに対する行政の役割及び減災・防災対応に関する日米比較研究
—東日本大震災の被災都市と米国ワシントン州ウエストポート市に着目して—

栗山 尚子

神戸大学大学院工学研究科建築学専攻准教授

環太平洋火山帯周辺の沿岸地域は、大地震と津波のリスクを共有している。米国のワシントン州の沿岸地域は、カスケーディア沈み込み帯（CSZ）で予想されるマグニチュード9（M9）の大地震の後に津波が来るリスクが高いと言われている。本研究では、日本の東日本大震災の経験での復興内容と、米国ワシントン州ウエストポート市の将来の地震・津波リスクをふまえた防災計画に着目し、災害の軽減と復興に向けた行政の役割や減災・防災対応に関する比較研究の成果を報告する。

【講演アンケートご協力お願い】

アンケート：<https://app.sli.do/event/xrawiva5>

本日のオープンゼミナールへの感想等をお聞かせください。

【開催記録】 後日、アンケート結果等を下記にアップします。

<http://open.kobe-u.rcuss-usm.jp/archive>

【今後のオープンゼミナールの予定】

<第 267 回 神戸大学 RCUSS オープンゼミナール>

日時:2021年5月15日(土)14時~17時

視聴:下記ページから、ライブ動画視聴申込を事前に行ってください。

https://zoom.us/webinar/register/WN_ieD1gh4ATWKqpeYDgwDiUA

① 富岳を用いた減災のための都市のデジタルトランスフォーメーション 大石 哲, 神戸大学都市安全研究センター教授

外力に対して「もの」の耐力の方が上回っていることが安全の定義であった時代には、それぞれの個体を設計する際に想定外力よりも強く作ってあれば事足りた。しかし、現在では災害が起こったときに衣食住ならぬ「医職住」の不足や欠落がないことが求められる「こと」の時代になってきて、インフラにもあらゆる場面での一定の機能維持が求められるようになった。そのような社会では、企業が持つ施設・人的資源の外力に対する耐力を知るためであっても、自社以外のサービスの健全性把握が必要になる。しかし、それらを平時から完全に確保するような仕組みや施設を維持することは非効率であり経営的に不可能である。そのような中では、企業の施設だけでなく関係する全ての要素を包含して計画を立てておく必要があり、そのためには複合的で広域のシミュレーションを行うことが求められる。それが都市の大規模数値シミュレーションである。現実の都市をシミュレーションするためには、現実の都市の情報が必要であり、正確には各建物や各施設の柱やはりの1本1本の断面、部材、位置、地下構造物の位置などである。データはあるがシミュレーションに活用できない障壁を下げ、都市のデジタルトランスフォーメーションを実現するための方法について説明する。また富岳を用いた防災減災研究の方向性についても説明する。

② 都市デジタルツイン技術を活用した民による国土強靱化 —自然災害への対峙的な防災・減災からの脱却— 飯塚 敦 神戸大学都市安全研究センター教授

2016年、理研 AICS@神戸において、神戸丸ごとシミュレーションが行われた。仮想空間内に神戸の街が再現された。都市デジタルツインである。これによって、多種多様な災害リスクが定量化される。一方で、企業価値の向上に非財務情報が重視されるようになってきた。都市デジタルツインにより、その企業が晒される災害リスクが具体化され、その低減への投資が企業価値の向上に結びつく構図が現れてきた。すなわち、平時の経済活動が国土の強靱化につながる図式である。この具体化を検討してみたい。

司会:橋 伸也 神戸大学都市安全研究センター准教授

※上記以降は下記の日程でオープンゼミナールを開催する予定です。

(当面、ライブ動画配信の形で実施予定です。)

●2021年6月19日(土)14時~17時

(内容:断層の話、他)

●2021年7月未定(土)14時~17時

(担当:社会基盤マネジメント研究分野)

【ご案内】

RCUSS オープンゼミナールは、広く社会に神戸大学都市安全研究センターの活動を公開するとともに、関連する各分野の皆様からの報告を通じて、安全な社会としていくための研究や実践のあり方を議論しています。

(地方創生に関する公募事業(COC+事業、代表校神戸大学)による「地域創生に定める実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」、ひょうご防災リーダー講座、及び、こうべ市民安全まちづくり大学と連携して実施しています。)

このオープンゼミナールには、大学の教職員・学生のほか、安全・安心に関心を持つ市民の方々や、コンサルタントなどの民間企業の方々、自治体の消防・建築・地域関係の職員の皆様などが参加されています。参加費は無料で、事前登録不要です。ご興味のある方は遠慮なくご参加ください。

【問い合わせ先】 神戸大学都市安全研究センター(RCUSS) 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

TEL: 078-803-6440 (担当 熊崎、北後) TEL: 078-803-6437 (センター事務室 山崎) FAX: 078-803-6394

MAIL: open@rcuss-usm.jp HP: <http://open.kobe-u.rcuss-usm.jp/>